



彼岸花が咲き誇る棚田

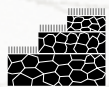
町並みについて

- ◆ 番所地区は、熊本県の最北端、熊本・福岡・大分の3つの県境にあり、菊池川支流の上内田川の最上流部に位置する豊かな自然環境に恵まれた農村集落です。
- ◆ かつては、山鹿と大分(豊後)の日田を結ぶ街道筋であり、通行人の出入りや荷物を調べたといわれる「御番所」跡があり、現在の地名の由来となっています。
- ◆ 2008年4月に発足した「番所棚田保全協議会」を中心に、都市農村交流を通じた活動が展開され、貴重な農村風景の後世への継承が図られています。



山の斜面に沿って形成された農村の街並み

町並みの中心(核)となる伝統的建造物



棚田及び石垣

- ◆ 同地区は石垣の風景が美しい家並みと棚田のある集落で、高低差80mの急斜面にある約200枚の石積みされた風景は、江戸中期以降、先祖代々が少しずつ開拓して形成されました。
- ◆ 秋(9月半ば)になると、棚田は黄金色に輝く稲穂の波と、畦や農道脇に真っ赤に染まった彼岸花が咲き誇り、古い石垣と調和した素晴らしい農村景観を作り出します。



先祖代々の汗と努力の結晶ともいえる棚田と石垣は、段々状の地形に蓄えた水を少しずつ濾過し下流へと流しています。訪れる人々が安らぎを感じる風景は、水源涵養など多面的な機能を発揮し、四季折々の表情を見せながら、今なお地域を潤しています。